

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 相志会	事業所名	看護小規模多機能型居宅介護こころくぼり
所在地	(〒 446 - 0073) 愛知県安城市篠目町竜田 155		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

看護職員が多いため、医療知識の豊富さや医療現場での経験の長さなどもあり、予後予測に対しての視野が広く、介護職員他職員も学ぶ姿勢が高いです。事業所としては、そんな学習能力を培うため、e-ラーニングシステムを導入し、自分のペースで知識を身に着けることができる学習できる機会があり、委員会でも身近な手洗いやオムツの当て方の勉強会が開かれ参加することが出来ます。職員は、ご本人の様子や状態における情報収集だけではなく、在宅で介護をしている家族への思いや言葉、気づき等を共有してくれます。在宅生活を継続するためには必要な気づきであると考え、一見関係ないことかもしれないが共有した方が良いのではないかと、思うようなことを話しやすい雰囲気であると感じています。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023 年 10 月 26 日	従業者等自己評価 実施人数	(14) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2024 年 1 月 24 日	出席人数 (合計)	(11) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input checked="" type="checkbox"/> 自事業所職員 (3 人) <input checked="" type="checkbox"/> 市町村職員 (1 人) <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1 人) <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (2 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (____ 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (____ 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (____ 人) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (1 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理念を職員に浸透するために朝の申し送りの際に伝え、事業所内の職員が見える位置に理念を掲示し、日々の業務に活かせるようにする。 ・内部研修については令和5年度より事業所全体で e-ラーニングにて行う予定なため勤務時間に縛られずに受けられる利点はあるが、自己目標に合わせた研修を目標設定期間中に受講するのは自分で管理しなければならないので、管理者と面談の機会を持ちながら定期的に研修の進捗状況を確認する。 ・職場環境の問題点は何か意見を出し合い、自分たちで改善できるところは改善して、代替案があれば調整してもらえようようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が見える場所への掲示を行い、申し送りの際に理念を読み上げる機会を持つことができた。 ・理念の内容に関して自分はこういった思いで介護をしているか等話合える機会が持てた。 ・項目が終わるごとに、管理者に確認してもらいながらコンスタントに終わらせることが出来ている。 ・職場環境の問題点に関して、思っていることを話してもらい、その中で勤務時間の変更や物品の購入など管理者と相談する機会を設ける。 	<p>職員の情報共有をして取り組んでください。</p> <p>職員が必要な物品に関しては、管理者に相談し、購入したりレンタルしてもらうようにした。</p> <p>理念を読み上げることによって、理念を身直に感じることになり、関心を持つようになった。</p>	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看多機の特性を活かして、看護職員や介護職員が互いの業務の内容を理解しており、傷の処置や留置カテーテルの固定等姿勢の保持を含めた業務中に学ぶ機会もあり、介護職員の利用者の状態の変化に対する意識は高い。 ・既往歴や現病にて今の瞬間困っていることにフォーカスし過ぎてしまい、持続 	<ul style="list-style-type: none"> ・傷の発見や痣の処置など介護職員からの提案で車椅子の変更やベッド柵の変更など具体的な対応の仕方の変化が生まれた。 ・短期目標の更新の際も家族や職員へ意見を貰いながら変更していきより良い計画にする。 	<p>定期的にカンファレンスを行い、利用者ごとに情報共有し、サービス提供してください。</p> <p>情報収集はしっかり行なっているが、それが記録として書かれていないことが多いのでケアカルテを中心に書いてもらうようにする。</p>

	<p>的な計画書になっていないため、短い期間を設け、目の前の事が解決したら、何をするかという長期的なものにもっと目を向けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体調が変わるごとに、歳を重ねるごとにサービスの内容もそれに伴う計画書の見直しを行う必要があるので、日々のモニタリングを含むアセスメントを確り行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな気づきでも話せるようになっており、特に自分の目で見ていない事柄に関しては（夜勤帯の事、在宅で起きた事）情報収集を確り行っている。 	
<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主治医等医療機関にはサルビー見守りネットやメール、電話などを使って日常的な変化はもちろん異常時などの状況について情報を共有しており、今後もさらに利用者の情報を正確に伝えていけるようにしていく。 ・コロナ禍等感染対策の観点から対面での開催を行わない場合は、部会などを参照し Zoom 等を使用したオンライン開催を実現していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サルビー見守りネットを中心とした情報共有や電話やメールなどで報告を行っており、急変時に慌てて報告をしないようにしている。 ・今年度は対面開催が可能だったため、今後感染対策の観点から行えない場合は ZOOM を利用する。 	<p>継続実施してください。</p> <p>左ルビー見守りネットを利用する医師が多いため、細かいことでも看護職員が中心に報告を行っている。(使っていない医師とのコミュニケーションが同時に課題になっている)</p>
<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の議事録や委員の方の意見に関しては事業所内にコピーを配布して、回覧したら氏名を記入してもらうようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議事録は閲覧できるようになっており、職員も読むことが出来ているが、中々サインまでは浸透しなかった。 	<p>看多機の良い部分を地域の人たちにPRできるように関係機関と連携を図ってください。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムに関して事業所内で勉強会を開催し、全ての職員に地域包括ケアシステムの中での看多機の立ち位置はどこに当たるのか実際に考えてもらおう。 ・医療度の高い利用者の方の地域のインフォーマルな力を使ったサービスがあるか福祉センターや市役所などに情報収集をし、実際にそういったサービスを家族に提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流が少しずつ回復してきた中で、地域ケアシステムとは何か、資料を作成し閲覧してもらった。 ・介護者としてある家族が疲れてしまい、人と話す機会が無いと言われたので部会中にご紹介されたお茶会へのご家族に提案した。 	<p>介護支援専門と月に一回話すことも少し介護で疲れている家族にとっては気晴らしになっていると知り、少し長めに話す機会を設けることとした。</p>
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・現在看取りの希望者はいないが、年齢や医療度が高い方はいつ必要となってもおかしくない。そのため、ご本人の様子や連携している医療機関、家族等と情報を綿密に共有していきながらご本人の病状だけではなく生活を支えられるように連携していく。 ・医療度の高い方もおり、不安の中在宅で利用者を看ている家族に比重を置きすぎると、宿泊が増え在宅から切り離してしまうことになるかもしれない。ご家族の不安や体力など加味しつつ、過大なサービスにならないように訪問時や送迎時などに家族に話を伺っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間中に看取りの希望の家族がおり、家族と何度もお話をする機会も際に職員が少しでも寄り添いながら訪問をします、とご説明し在宅での看取りを行うことが出来た。 ・上記の方も点滴の指示が出たため、しばらくこころくばりでの看取りの方が家族にとって安心ではないか、という職員の意見もあり、全てふまえてご家族と共に話し合いを重ねた。看護職員が訪問看護で十分行えると意見をくれたため家族は踏み切ることが出来た。 	<p>今後も継続実施してください。 施設内での看取りもあったが、在宅での看取りも行うことができた。呼吸が弱まってくると緊急の電話や家族から不安の訴えが多く、細かく訪問することになったがご家族は自宅での見取りに満足されていた、</p>

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<p>長期的な目標を管理者との面接で定めることが難しく、短期目標を定め達成することに終始した。</p> <p>サービスの特徴や理念について、具体的に説明できるまで浸透している職員が少なく、カンファレンスの際に何度か話し合いが必要となった。</p> <p>内部研修に参加することができたが、市内や市外の研修に参加できた職員が少なかった。</p> <p>情報共有の方法にチャットワークを利用したことによってリアルタイムで情報が更新できるようになった。</p> <p>施設内の防災訓練に参加しているが、在宅にいる場合などの方法などが確立していない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスや管理者との面接を利用し、理念や事業所の特徴を活かした長期目標と短期目標を職員各自が定め、達成する ・市内や市外の研修に参加し、参加できなかった職員にも情報を共有し知見を深めるようにする ・市内の防災訓練に参加し、寝たきりの利用者の方や団地にいる方の避難など、ご家族や地域の方への聞き取りをしながら訓練に参加できるようにする 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<p>通所しか使っていない方が特に在宅での情報が家族と共有できていない、アセスメントが不足している部分があった。</p> <p>看護職員に情報が偏り、介護職員の視点の情報が不足していることがあった。</p> <p>重篤な状態であると家族の思いに計画が偏りがちなので、本人が生きる楽しみを見出せるような、思いを反映した計画書を作成したいが、中々できていない。</p> <p>終末期を向ける方の家族に対し、終末期とはどういった風に向かえばいいのか看護職員より説明をしていた。職員同士でも話し合いを重ねていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員以外の情報が日々の記録にも含まれていないことがあるので、日々の記録に家族からの思いや本人の様子などケアカルテに残す ・家族の思いも聞き取ることも肝心だが、本人の思いや様子を聞き取ることも大切なので、看護の視点、介護の視点からアセスメントに応じた計画を作成する ・終末期になる利用者に対して思いやご家族の介護力など短い期間で話し合いを重ねることがあるが臨機応変に行いながら、方法を確立する。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<p>病院のソーシャルワーカーからの情報提供や相談も多く寄せられており、細かい情報収集やインテークの時の関係者からの情報提供など細かく頂く機会が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病院や居宅の職員に看多機は何ができるかきちんと伝わっていないことが多く、宿泊を中心とした説明がなされていることが多いので、他施設や病院に情報を啓蒙する

		<p>サルビー見守りネットを利用し、普段からの様子の共有をしてもらい、状態が悪くなってからの急な報告にならないようにしている。散歩には花の季節を中心に行くことが出来、写真を撮ることが出来た。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウィルスの流行がそろそろ明けてきているので、散歩や外出など花を中心に季節を感じられるように地域に出たい
	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)</p>	<p>運営推進会議の記録は事務所と現場の分かるところに置いてあるため、回覧することが出来る。</p> <p>施設内で発熱があったり、コロナウィルス流行時期故に中々積極的に他施設に赴いて情報発信ができなかったが、福祉祭りにはパネル展示を行った。</p> <p>経験豊富な看護職員が増えたことにより、様々な医療処置のある利用者を受け入れることができています。どの利用者に関しても情報がもたらされた場合はチャットワークなどに情報を載せ、どういったサービスでご利用者や家族を支援できるが話し合っている。</p> <p>近隣の住民の方と駐車場や送迎の面でご挨拶をさせていただくこともあるが、介護力向上には繋がっていない。吸引などの看護力やオムツ交換のコツなどご家族にお伝えして介護力を上げるようにしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の意見などを回覧できるように事業所にコピーを配布し読んでもらうようにする ・地域の中で事業所として何が出来るか、福祉祭などでパネル展示ではなく、介護サービスの説明などを行う ・地域の住民の方と防災訓練を中心として、どう言ったことが事業所として行えるか、示せるようにしていく
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)</p>	<p>サービス導入時に家族の思いや本人の思いを明確になるよう確認している。</p> <p>医療処置がある方は、サービスを柔軟に変更し、傷の処置や医療処置を訪問看護にて行ったり、体調不良のご家族のために、ご本人を宿泊するなどしていた。</p> <p>同居の奥様のトータルケアなど行えるように相談し、包括支援センターの職員と同行訪問した。</p>	<p>家族や本人の思いはサービス導入時だけではなく、変化していると思うので、その度にお話を聞かせていただけるように信頼関係を構築していく。</p> <p>介護をしているご家族の健康や様子なども、介護支援専門員中心に伺い、困っていることはないか家族も包括的に支援できるようにしていく。</p>	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	0	4	7	3	理念について職員間での情報共有をし、取り組んでください。 自施設の強みを活かして、地域包括ケアシステムに取り組んでいただければ良いと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	3	4	3	4	理念について職員間での情報共有をし、取り組んでください。 難しいとは思いますが、繰り返し伝えることで浸透させてください。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		できたと思う。					
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	2	6	6		<p>職員の研修、資格の取得など計画的に行い、職員への意識づけにしてください。</p> <p>面談等繰り返し、目標の共有化をはかって下さい。</p> <p>職場として育成計画が、本人の思いが反映されたものになっているか、その意味では面接はとても重要な役割を持つと考える。</p>	<p>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</p> <p>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</p> <p>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</p>
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	2	6	6		<p>研修受講の確保に努めてください。</p> <p>オンライン等研修の機会は増えてきています。業務時間内に研修が受けられるよう工夫してください。</p>	<p>✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修は時間を見て参加することができたが、訪問介護の時間などで参加できない事もあった。 				<p>安城市としても各種の研修がありますので、できる範囲で参加してください。</p> <p>人的な部分で余裕のあるとは言えない状況の中で、研修の機会を持つことはとても難しいと思う。学校でも同じであるがそれをまとめ職員で少しずつ分担し、サポートできるような体制づくりが大切である。</p>	
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		8	6		<p>定期的なカンファレンスの実施をするなど共有できるように努めてください。</p> <p>八千代病院介護事業部ではチャットワークを活用し、職員間の情報共有は格段に進んでいます。積極的な活用をして下さい。</p> <p>外国人の職員に対して、どうやって情報共有するのか、その具体的なものを教えてほしい。学校でも苦心している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概ね出来ていると思うが、外国人の職員にどうやって情報共有をしたらいいかわからないこともあった。 ・訪問にでられる職員の中で情報が共有されていたが、施設内で勤務している職員に伝わらない事があった。 ・チャットワークというツールを使って変化があった利用者の事などを入れて共有している 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
						ところもある。何か良いツール、アプリなどがあれば業種を超えて、情報共有をしたい。	
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	2	8	4		<p>運営推進会議で話をした内容など議事録などで職員に周知してください。</p> <p>限られた時間での営業は確かに難しいですが、月数件でもいいと思います。またホームページや各種 SNS での情報発信も営業手法となると思います。</p> <p>ぜひ今後も、ご活用ください。事前に一声かけていただければグランドあたりまで入り、子供たちの様子なども見てもらうことも良いと思います。</p>	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営業に行けるスタッフも少なく、外部研修にて看多機の事を、話をする程度になってしまった ・散歩には篠目中学校の校門から中へ入り写真を撮らせて頂いた。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	4	8	2		就業規則については職員にわかりやすく説明してください。また、就業環境の充実も図ってください。 職員の安全は何より大切な事柄であると思います。安心安全な環境の整備を続けてください。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	4	8	2		日ごろから職員間共有するとともに支援計画など利用者に寄り添った支援ができるように努めてください。 チャットワークは使い方によって情報共有の質が上がります。様々な方法を試してみてください。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
						チャットワークの活用法についてはいつでもお聞きください。	
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	2	4	4	4	<p>職員間で対策がわかるように情報共有してください。</p> <p>事故は避けられないものだと思います。いかにして事故が起こったのか、どうすれば再び事故を起こさないのかを振り返り、他の職員へ共有化してください。</p> <p>能登地震を踏まえて職員の防災訓練は積極的に行っていると思いますが施設利用者も巻き込んだ訓練も必要かも。</p>	<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します</p> <p>対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	2	7	5		利用者ごとに対応が必要なので共有してください。 集合住宅の災害時対応等は当該地域においても課題となっている項目です。サービス事業所としてのノウハウの共有ができればと思います。よろしくお願いたします。 定期的の防災無線の点検を防災訓練に実施してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	4	6	4		家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントを行ってください。 アセスメントについては包括としても悩んでいます。その手法について共有化出来ればと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	4	6	4		利用者ごとのカンファレンスを行って、共有してください。 両職種の共有理解が必要な項目だと思います。介護職員の意見の反映と医療的アセスメントにおける学習を推進することも必要かと思えます。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	4	4	6		サービス計画を立てるため、把握に努め、計画の作成してください。 本当に難しい項目ですが、一つ一つ丁寧に実施し、その内容について確認し合うこと	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	おおよそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		<p>いる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族よりのサービスになってしまう事がある。 				<p>が必要かと思います。</p> <p>家族の思いと本人の思いを家族と交えて十分な話し合いが必要だと思います。認知症などが発症している利用者には特に必要と思います。</p>	
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	6	6	1		<p>利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む計画となるよう努めてください。</p> <p>老齢期における看多機利用はいかに利用者の生活を彩ることができるのかを、職員で考えても良いかと思います。</p> <p>中学校としても楽しみにつながるような部分で、一緒に協働できるような活動を考えていきたいと思っています。</p>	<p>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	4	6	4		サービス計画を立てるため、把握に努め、計画の作成してください。 予後予測等については看護職員への期待値があがることから、本人・家族との緊密なコミュニケーションが必要かと思えます。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	5	6	3		把握に努め、今後も計画の見直ししてください。 上記と同様、本人・家族との会話を通じた信頼関係の構築がアセスメント→ケアマネジメントの基礎になると思えます。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	4	7	3		適切なサービス提供できるよう把握に努めてください。 看多機であるが故の事柄だと思いますが、在宅及び施設における生活の質の向上を目指していけたらと感じます。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	4	5	5		職員間での共有に努めてください。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	4	6	4		<p>それぞれの専門性がいかせるよう職員の体制をできるよう努めてください。</p> <p>一事業所における看護と介護の連携事例は、他の施設や事業所において参考になることが多々あると思います。是非広く周知をさせてください。</p> <p>レクリエーションは利用者はもちろん、介護職員も必要と思います。毎日の繰り返しの生活には心身ともにレクリエーションは大切と思います。</p>	<p>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できて いる	あまりで きていな い	全く できてい ない		
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	5	6	3		職員間の情報共有に努めてください。 人と人の連携ですので、最後は信頼関係が肝になります。信頼関係のもと、情報共有等ができると思っています。お互いを理解し合う視点を持ち続けて下さい。	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	5	6	3		日ごろから職員間の情報共有に努めてください。 専門職は専門性の向上は言うまでもないですが、難しいことをいかにわかりやすく伝えるかも専門職の非常に大きなスキルだと感じています。	✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	4	7	3		契約時においてきちんと説明をし、理解をえるように努めてください。 本人・家族が理解できる説明をできることが、看多機を広く伝える基礎になると思います。しっかり取り組んでください。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・看多機のサービス内容については、家族にどう伝わっているかお話をしながらどういったことが出来るか、どういった組み合わせが出来るかを訪問時にお話ししている。 ・泊まりのサービスをショートステイと勘違いしている家族がいたので説明を行った。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	4	6	4		サービス計画策定する際に利用者、利用者の家族に説明できるように努めてください。 サービス中心になることはどの分野でも同じだと思います。アセスメントやケアマネジメン트가いかに大切かを実感しています。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・家族にとって在宅での生活の継続できる注意点は違うので、お話を聞きながら具体的なアドバイスが必要なら看護職員も交えてお話をしている。 ・計画の内容がサービス中心になってしまっていることもあるため、もう少し在宅よりにした方が良かった。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	7	7			<p>今後もわかりやすい説明を行ってください。</p> <p>家族の不安は我々専門職の想像を超えていると思います。</p> <p>わかりやすい説明に尽きると思います。</p>	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	5	6	3		<p>適切なサービス提供に反映してください。</p> <p>意思決定については本当に悩むところです。本人中心の意思決定をしていきたいと思えます。</p>	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護職員が中心となって医療ケアについてお話をしており、必要物品の購入なども含めて説明する機会を設けている。 ・訪問看護の際に家族にしやすい方法と家族が出来そうな方法を一緒に考えて提案・助言している。 					
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の思いが中心になってしまい、本人の気持ちが少し薄れてしまう事がある。 ・在宅生活では、サービス以外の家族の協力も必要なので、ご本人の思いだけを優先することが出来ないが、うまく折り合いを付けながらお話をしている。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる	4	5	5		相談、共有ができるよう努めてください。 在宅における利用者の歴史が必ずあり、その歴史が直接的な言葉でないにしても、本人の意志を伝えることもあと思っています。様々な視点から話を聞くことが必要かと思っています。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・在宅生活に対し、ご家族の協力や思いはどれほどのものか月々の訪問の際に伺っている。 ・在宅で見ている家族以外の思いが中々聞けていないので、お話しする機会を今後作っていきたい。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	5	6	3		今後も意向などを説明、記録してください。 終末期に関する貴施設の取組を広く周知していただきたいと思っています。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・日常的な記録に加え、家族からの意見や思いなど伺った際は記録に残すなどして共有していた。 ・終末期を向ける方の家族に対し、終末期とはどういった風に向かえばいいのか看護職員より説明をしている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	5	5	4		どの地域も病院の入退院における課題は山積しています。看多機として見えてくる病院側の問題点を提起されることを願います。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	4	6	4		サルビー見守りネットを利用しながら情報共有と情報発信をしていることを利用者や利用者の家族に説明をし、活用してください。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		情報共有と情報発信をしている。				サルビー見守りネットの積極的な活用ありがとうございます。今後も是非周知のほどお願いします。	
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	5	6	3		サルビー見守りネットを利用しながら情報共有と情報発信をしていることを利用者や利用者の家族に説明をし、活用してください。サルビー見守りネットによって、関係者が常に意識していることが大切であり、急変時の対応も迅速にできるものと思います。	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・サルビー見守りネットを利用し、普段からの様子の共有をしてもらい、状態が悪くなってからの急な報告にならないようにしている。 ・細かい変化でも報告できるように、どの看護師からも電話やサルビー見守りネットが利用できるようにしている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	2	6	6		<p>運営推進会議での包括的サポートの提案がありません。今後も積極的に地域へ出てください。そのためには包括、生活支援コーディネーター、民生委員等を積極的に活用してください。地域に開かれた施設を実現してください。</p> <p>花見や散歩は季節を感じることができ、大切と思います。これからも継続してください。</p> <p>中学校は緑に色づき木陰を作るケヤキ、春と秋には花壇に花が咲いています。ぜひお立ち寄りください。</p>	<p>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</p> <p>✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」</p> <p>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができ るような方法での情報発信 が、迅速に行われている	6	6	2		<p>情報発信ができるように努 めてください。</p> <p>職員個々の働きが、いかに地 域に影響を及ぼしているか を、職員に対して伝えてもら い、職員が貴施設にいること の誇りを醸成してください。</p>	<p>✓ 「誰でも見ることができ る方法での情報発信」と「迅速な情報発 信」の2つの視点から、充足度を 評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の記録は事務所と現場の 分かるところに置いてあるため、回覧す ることが出来る。 ・特に現場への助言などがあった場合 は、申し送りの際に伝えている。 					
33	○ サービスの概要や地域にお いて果たす役割等につい て、正しい理解を広めるた め、地域住民向けの積極的 な啓発活動が行われている		2	8	2	<p>積極的な啓発活動に努めて ください。</p> <p>上記と同じ</p>	<p>✓ 「積極的な啓発活動」について、 評価する項目です</p> <p>✓ 例として、「チラシ等の配布」や 「地域説明会の実施」などの取組 が考えられます。</p> <p>✓ 利用者や職員の確保のみを目的 とした活動等は除きます</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス流行時期より、地 域の方との交流は減っているため具体的 取り組みなどは出来ていない。 ・福祉祭りにてパネル展示を行い、地域 に向けて発信をしている。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ できて いる	あまり でき ていな い	全く でき ていな い		
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	2	4	8		積極的に受け入れを行ってください。 高齢者人口の増加に伴い近年、訪問看護ステーションが増えています。また同じ看護小規模多機能も増えます。地区は違いますが、その分競争も激しくなります。貴施設の強みを生かした営業及びサービス提供をお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	6	6	2		積極的に受け入れを行ってください。 貴施設がこれまで培った専門職な知識、技術を広く地域に提供してはいかがでしょうか。それも営業活動の一つであると考えます。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		ることによってご家族にて吸痰が行えたこともあった。					
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	2	4	6	2	積極的に受け入れを行ってください。 上記と同じ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・人工呼吸器を必要とした方の利用を受けたことがないため、どういったことが必要なのか分からない。 ・看護職員がいれば受け入れることが可能なため、話があれば受けていきたい。							
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	4	6	4		積極的に受け入れを行ってください。 上記と同じ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・看取り支援を必要とする方の受け入れは、訪問看護を中心としたサービスの提案等を行っている。 ・看取り目的での利用の方も過去にはいたため、医師との連携をしながら行うようにしている。							
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲		6	6	2		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・中々職員一人ひとりまで方針や計画内容まで理解できていない。 ・医師を中心に行っているサルビー見守りネットなどで意見などが積極的に話されている。				研修などを通じ、理解を深めてください。 地域包括ケアシステムにおける貴施設の役割は何でしょうか。施設内で話し合われても良いかもしれません。	✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	4	6	4		継続的な実施をしてください。	✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		4	6	4	地域の関係者との連携をはかり取り組んでください。	✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<p>た2年前より交流が研修に参加したり、お祭りに参加することが途絶えてしまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の行事や防災訓練の情報はもらうことが出来たので、今後は参加できるようにしていきたい。 				<p>少しずつで良いので、地域への働きかけ、地域との協働をお願いします。</p>	<p>て得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		6	6	2	<p>利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力向上に努めてください。</p> <p>「知らない」ということが不安を増幅させます。逆に知られていることで信頼関係も構築できます。いかに知ってもらえるか、いかに伝えるか、あらゆる方法を尽くす必要があると考えます。</p>	<p>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用に繋がったことで目標が達成された方も多いが、状態によっては迅速な更新も必要になっている。 ・サービス導入時に家族の思いや本人の思いを明確になるよう確認している。 	<p>アセスメントを行い、職員、家族など情報共有し、サービス提供してください。</p> <p>すべての利用者に対して目標達成することは、かなり難しいことですが、その都度の臨機応変な対応が看多機の特徴であると考えます。</p> <p>これまでの各種の経験を職員、地域へと広く伝えてください。</p>	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p>	利用者及び家族など日ごろの生活など確認してサービス計画の立案に努めてください。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」に

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	得られている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・怪我の処置などがあつた場合、いつもは訪問の希望がない方の訪問をして傷の処置を行った。		ついて、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・利用者様の状態について医師と家族と相談し、点滴の指示が出ていたが自宅での看取りへと切り替えて、オンコールと訪問介護等を組み合わせた。 ・同居の奥様のトータルケアなど行えるように相談し、包括支援センターの職員と同行訪問した。	利用者及び家族など日ごろの生活など確認してサービス計画の立案に努めてください。 包括職員との同行訪問によるトータルケアの例などを他の専門職へ伝えてください。	✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内(通い・泊まり)での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」